

ODIP リポジトリマネージャ 3.3 リリースノート

2017/02/01

(株) インテリジェント・モデル

- ODIP は、（株）インテリジェント・モデル社の登録商標です。
- 本書に掲載された情報に基づいた行為の結果として発生した損害、利益の損失、経費などについて、（株）インテリジェント・モデルならびに本書の製作関係者は一切の責任を負いません。
- 本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部を無断で転載・複製することは法律で定められた場合を除き、禁止されています。

目 次

A.	機能追加・拡張	4
1.	Teradata への対応	4
B.	その他の変更と修正の履歴.....	5

A. 機能追加・拡張

1. Teradata への対応

ODIP プロセスマネージャのデータソース情報にある DBMS 名に、「Teradata」が追加されました。

 パスワード保存; JDBC設定: DataSourceName=db@Teradata. Buttons at the bottom: テスト(D), 新規(N), OK, キャンセル."/>

No.	項目	説明
1	データソース名	任意のデータソース名になります。
2	DBMS 名	Teradata Database を使用する場合は「Teradata」を選択します。
3	ポート番号	DBMS 名に「Teradata」を選択した場合、ポート番号の指定はできません。
4	データベース名	TDPID を指定してください。 ここで指定した値は、ODIP トランスフォーマサーバから実行される tbuild コマンドの、TPT スクリプト内の TdpId として使用されます。
5	ユーザ	Teradata データベースへ接続するユーザ ID を指定してください。 指定したユーザ ID は、デフォルトのスキーマ名 (Teradata の"データベース名") として使用され、ODIP が実行する SQL は"ユーザ ID. テーブル名"になります。 (スキーマの指定がデータセットにあれば、"スキーマ名. テーブル名")
6	パスワード	Teradata データベースへ接続するユーザのパスワードを指定してください。

B. その他の変更と修正の履歴

本リリースでは、ODIP リポジトリマネージャ／プロセスマネージャの修正はありません。

以 上